

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	農林部農業振興課	■担当係	水田営農係
■評価事業名称	農産物の害虫駆除及び植物防疫事業		
■事業開始年度			
■評価事業コード	050200 - 304	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり	
	■基本施策	03 魅力ある農林業の振興	
	■施策	01 農業の生産性向上	
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	水稲、畑作物、果樹の防除計画作成、実績検討などによる農産物の生産力の向上を図る。農産物の害虫駆除、植物防疫に係る活動の実施		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	農産物の害虫駆除及び植物防疫事業	県病害虫防除所	岩手県病害虫防除協議会の活動に沿った病害虫防除対策に係る実施計画の策定及び各種報告	○水稲病害虫防除計画策定○病害虫防除員の推薦○岩手中部病害虫防除協議会総会(4/20)1回、幹事会(1/21)1回○農薬適正販売、使用研修会(6/20)○水稲防除剤散布と蜜蜂への危被害防止会議(7/4)○水稲病害虫防除実績報告2回7/27、9/27○蜜蜂への被害防止・広報掲載(7/28発行)・HP掲載(7/10)○農薬適正使用の注意喚起

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	1	1	3	3	
人件費	74	150	458	461	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	75	151	461	464	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	実績検討会開催回数	2	2	2	2	実績検討会開催回数
02	水稲イモチ発生圃場率(%)	資料未達	葉いもち20%、穂いもち0%	葉いもち50%、穂いもち35%	葉いもち20%、穂いもち40%	「植物防疫事業年報」の北上地域より少と微の合計

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

03	水稲病害虫防除活動実績報告回数	2	2	2	2	水稲病害虫防除活動実績報告回数
----	-----------------	---	---	---	---	-----------------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

9/4の台風21号、10/1の台風24号、10/7の台風25号えの強風や大雨等の被害はあったものの、水稲の作況指数が「101」であり、うるち米の1等米比率が98%となるなど、水稲病害虫防除計画による防除等の効果もあり、平年並みの収穫を得ることができた。

問題点・課題等

気象状況により地域毎に防除時期や回数が異なるため、毎年のように蜜蜂への被害が発生しており、連絡協議会で危被害防止の協議をしているが、有効的な手段がない。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

水稲、畑作物、果樹の防除計画作成、実績検討などによる農産物の生産力の向上を図り、農産物の害虫駆除、植物防疫に係る活動の実施していくため、今後も継続が必要

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了